

**平成24年度  
第2回藤島地域審議会  
会議録(概要)**

期日：平成24年8月9日(木)

場所：藤島庁舎2階202・203会議室

## 第2回藤島地域審議会会議録（概要）

○日 時 平成24年8月9日(木) 午前9時30分～

○会 場 藤島庁舎2階202・203会議室

○出席委員（五十音順） 15名

阿部正良、安藤良昭、上鉢浩美、奥山康光、小野木覺、佐藤一晴、澁谷俊一、  
相馬大、高橋徳雄、富樫菊子、富樫正明、堀口大介、松浦伸、丸山鎮、渡部綾子

○欠席委員 5名

上林節子、齋藤泰宏、高山千代子、富樫達喜、成田元気

○出席事務局職員

本所 企画部次長 三浦総一郎、

教育委員会 教育部長 山口朗、管理課主幹 鈴木金右エ門、学区再編対策室主査  
本間朗

藤島庁舎 支所長 中村眞一、総務企画課長 今野克雄、総務企画課主幹 本間  
光夫、市民福祉課長 丸山隆逸、産業課長 五十嵐武、産業課主幹 上林  
正利、東部建設事務室長 高橋親孝、東部税務事務室長 山口弘男

○次 第

◎ 辞令交付

1、開 会

2、挨 拶

3、委員紹介

4、会長・副会長の選出

5、報 告

・学校適正配置について

6、協 議

(1) 地域審議会協議テーマについて

7、そ の 他

(1) 藤島ふれあい食センター調理業務の民間委託について

8、閉 会

## 【 会議の概要 】

◎ 辞令交付 (中村支所長)

1、開 会 (今野総務企画課長)

2、挨拶 (中村支所長)

3、委員紹介 (今野総務企画課長)

4、会長・副会長の選出

委員の互選により、会長に小野木覚委員、副会長に富樫委員を選出

5、報 告 (教育委員会より)

・学校適正配置について

6、協 議

(1) 地域審議会協議テーマについて

○小野木覚会長 それでは地域審議会テーマについて事務局からご説明をお願いします。

○今野総務企画課長 それでは協議テーマについて説明させていただきます。地域審議会の役割につきましては、合併に掛かる次の事項について、市長の諮問に応じてご審議いただき答申するもので、建設計画の変更に掛かる事項、それから新市建設計画の執行に掛かる事項、その他市長が必要と認める事項といったことで、市の各種計画にもご意見を頂いています。また前回からですが、各地域の課題をもとにテーマを設定し、市長へ提言をいただくという形を取っております。今回、第1回目ですので藤島地域審議会のテーマを、皆さんから決めていただければと思います。前回の藤島地域審議会では、テーマが4つと多かったため、それぞれの課題について、議論する時間が少なく、そのため一つひとつ議論を深めるまでには至らなかったのではないかなど反省しております。そこで、今回のテーマ設定では、課題となるテーマを一つか二つに絞って、市長へ提言したいと考えておりますが、いかがでしょうか。

また地域審議会で議論された内容につきましては、最終的に来年の12月に、市長へ提言書を提出する予定となっておりますので、よろしくをお願いします。

○小野木覚会長 只今、事務局の方から審議会の役割、あるいはテーマ案のご説明をいただきましたが、前回は四つのテーマでありました。余りにも幅広くしますと、なかなか皆さんからの審議をいただけないということもありましたので、できるだけ絞って頂きたいというのが事務局の趣旨でありますので、皆さん、どう致しましょうか。

○相馬大委員 絞って深くやるのもいいとは思いますが、あまり絞りすぎると、その一点だけで、この地域が変わるわけではないので、あまりしぼり過ぎるのも、いかなものかと思います。

○小野木覚会長 はい、かならずしも一つとは限りませんが、あまり幅広すぎても困ると…、例えば2つぐらいにして、その他の所で、こんな意見もあるよと事務局の方から捉えていただく方法は如何なものでしょうか。

○丸山鎮委員 テーマを設定して、ここで議論をするべき内容なのか、それとも別の場所で進めていく内容なのか、分析してみないと中々進まないと思います。これから議論するテーマとして、どういうものがあるのか。そのテーマは、ここで議論していくべきなのか、その辺を最初にきちんと決めるべきだと思います。

○小野木覚会長 それでは、事務局の方から、どの程度のテーマを皆さんから審議してもらうのか、ちょっとお聞きしたいのですが。

○今野総務企画課長 全て地元で完結できるものはないと考えております。大きく言えば、市全体でも解決できないことも多々あるかと思いますが。地域で今、何が課題となって、どう進めばいいのかを市長に提言していけたらなと思っております。

○小野木覚会長 資料1に載っている案として「農業高校を守り育てるために、庄農を地域で盛り上げていく、支えていく方策を考える」というのが一つと、「藤島の観光を考える」というのが二つ目、それから前にも皆さんからご意見いただきました「地域内の広報の在り方についての方策」。この3つが上がっております。広報の在り方については、前、相馬さんからいろんなご意見・提案いただきました。これを除いても、その他の所に皆さんの、委員のこんなこともやってもらいたいということを入れていただければなお一層いいのかなと思います。1番2番はいいとして、3番目に何か、皆さんから提案してもらってそれを審議したらどうでしょう。

○相馬大委員 一昨年は、アンケートの形で、それぞれの意見を出したと思うのですが、それを事務局でまとめていただくのはどうでしょうか？

○今野総務企画課長 前回の決め方としては、相馬委員の通り、皆さんからアンケートを頂いて、4つの案で進めてきた経過がございます。今回につきましては、皆さんに

事前に資料を送付しておりますが、あくまでもこの3つの案については事務局のたたき台で、皆さんからこうしたことで提言してはどうかという案があれば、この場を出して頂きたいと思います。

**○小野木覚会長** という事で、むしろ、皆さんから、こんな事をやって欲しいということがあれば……。はい、高橋委員。

**○高橋徳雄委員** 地域審議会がなぜ出来たのかというと、議員の定数が極端に少なくなるので、その代わり地域の団体の皆さんからご意見を拝聴して、地域のために進めようという意味が大きい訳で、非常に権威のある会議だということを知って頂きたい。

そこで、私一番気にかかっているのが、やっぱり合併当時の建設計画です。これは交流人口を増やすため、そして企業の誘致を図りその企業に朝夕勤めるためには、道路整備が必要で、文下からの藤島・鶴岡間道路を整備することが藤島の発展につながるという判断をした訳です。それ以外にも農業の問題とか、第6次産業の問題とか商工業の発展とか色々な問題もありますので、審議会も分割して何人かでグループを組んで審議していったらどうでしょうか。たしかに農学校をどうするかということも大事であります。もう間もなく合併して10年になる訳ですので、その間、藤島に対して、特例債がどれぐらい来ているのか、ちょっと疑問を持つわけですが、そういう意味合いも含めて、審議会を分割する方策もあるのかなと思うわけです。

**○丸山鎮委員** 一つは審議会で議論する方法ですが、テーマによると思いますが委員を分けての分科会方式もあると思います。それから私ウォーキングして、藤島地域、車では見えなかった部分が大分見えてきました。その中で、地域に空き地はあるし、空き家はいっぱい出てきたし、月山水道企業団とかの公共施設ももったいない。それから藤島庁舎にも空き部屋がだいぶ出てきた。庄内農業高校の立派な寮ももったいないと思います。それは少子高齢化で、どうしようもないと諦めないで、それを上手く利用して藤島地域の活性化に繋げる、萎んでしまうのではなく前向きに考えるような、地域住民の起こし方、元気の出るような事を考えられたらいいのかなと思います。

**○阿部正良委員** 藤島で誇れるものは何だろうか、新しく作るということよりも、今藤島で誇れるものをどう育て、発展させていくかが大事かと思います。それじゃあ何があるかといろいろ考えると米やフジ、それに歴史公園や、斎場の脇にある野草園とか、根っ子杉を、どう環境整備していくか。これらをより魅力ある施設としてどう環境整備していくか、その辺も非常に大事なのではないかなと思います。観光を考えると

うテーマも出ていますが、それよりも、もっと実現しやすい具体的なテーマを話し合  
って、より実現する方向での話し合いが非常に大事だと思うんです。

**○小野木覚会長** はい、どうもありがとうございます。藤島生まれでない安藤さんから  
見て、藤島についてどんなことを考えていますか？

**○安藤良昭委員** 私は、藤島に来てちょうど10年になりますので、いろいろと考  
えていることを申し上げたいと思います。まず少子化については、婚活で成功している所  
もあるし、婚活をやらなくても成功している所もある。婚活というのは少子化を防ぐ  
ための一つの案だと思います。婚活というと、あせってばかりいるような感じがす  
るので、無理やり結婚させるのではなく、共に語り合おうという様な雰囲気の会合を  
行う。今、まさに独身なのは40代、50代の人ばかりで、その人達のこととも考  
えて、結婚を考えた上で、付き合いをさせるという方向性を持たせた方がいいのではな  
いかと思います。

あと藤島の誇れるものは何なのかといえば、農業を主体としたまちづくりをしてい  
かなければならないのではないかと。お米を作る、野菜を作るだけではなくて、近場の  
人たちが寄って買い物をしていくような魅力をつくる必要があるのではないかと。そ  
ういう意味で、農業に対する考え方を、もう一度、考え直してもらいたい。

それからもう一つは、藤島はフジの花が名物だと言うけれども、栃木のフラワーセ  
ンターのようなフジ公園を造っていく。日本一にならなくても良いので、大きなフジ  
の花の見学できる所を作っていく。さらに四季それぞれの花々を植えて年間を通して  
来てもらうという作戦も立てる必要があるのではないかと。そして、ただ造るだけでな  
くて、それをどうやって維持していくのか。維持するのは嫌だよ、となったらどこが  
守っていくのか。そのためのバックアップも必要だと思います。

**○小野木覚会長** 初めて審議委員になられました、渡部委員さんのご意見をお聞きした  
いのですが…

**○渡部綾子委員** 私も藤島の観光を一番大事に考えたいと思います。それで、せせらぎ  
通りの木は全部いらぬんです。木をもっと北側に持って行って、フジの棚を全部つ  
くったら街がフジの里でいっぱいになるのではと考えてみました。

**○小野木覚会長** はい。どうもありがとうございます。新しく就任された上鉢さん。議  
題として地域審議会でも審議してもらいたいことがあれば。

**○上鉢浩美委員** 藤島を盛り上げることを考えると、仕事上、観光ということが頭にあるんです。まちづくりの活動をして、藤島といえはなんだろうと考えると、「お米」、「農業」、そういうことで地域を活性化しようと思うのですが、やっぱり単体でなく、それを繋げていくというのが凄く大事だなということが活動して分かったんです。産直「楽々」とか庄農とか農業関係のものが沢山あるんですが、それぞれが単独で活動すると、そこだけで終わってしまって、それを繋げていくことによって大きくなって地域外の方に広がっていけば、外からもお客さんが呼べる。観光と農業を繋げる事業を考えていけば良いのではないかと思っています。

**○富樫正明委員** 私、今年度から委員に選ばれました、消防団の代表として選ばれたので、どうしても防災的な考え方をしてしまうのですが、近年は大雨で洪水騒ぎがかなりあります。藤島地域には藤島川、京田川とあって、洪水騒ぎになると床上浸水等の被害もです。その辺の整備は、この会議ですて良いのか分かりませんが、災害のない藤島にしてもらいたいと思います。審議会のテーマについて、私、出身校庄農なので、庄農を盛り上げて地域を盛り上げるというテーマは個人的には大変興味ありますので、ぜひ取り上げて欲しいと思います。

**○松浦伸委員** 私も今年から委員になりました。私も、他所から来たものです。この町に来るにあたって非常に魅力的だったのが農業、いわゆる働く人が汗する姿を間近で見れる、育つ姿を間近で見れる、水もある、山もある、それから教育環境、今、ちょっと児童館とかは閉鎖になっていますが、あの当時、各地域に児童館があり、地域の拠点となって小学校もあり、幼、小、中、高校まで地域にある。子育てする面でも非常に魅力的な街だなと思ってこの街を選んだという記憶があります。特に藤島は「農業」が魅力的だと感じます。食育の面からも見ても、サンサン畑の会の皆さんと協力して、全国に先駆けて地産地消の活動をしている。またグリーンツーリズムの受け入れ、それから様々な形で交流人口を増やして、商業に結び付けていくというやり方かと思っています。今ここにある資源を、今一度見直して、交流人口を増やすことができないのかをテーマに入れてもいいのかなと思います。更には立派な体育館があります。合宿、県大会、地域大会など各地域から人が訪れます。そういったあるものを使って、交流人口を増やすための施策を考えるのも一つの手だと思います。また子育てする環境も魅力的なので、この部分ももっとPRしていく。またグリーンツーリズムももっとPRして農業の活性化に繋げる。こうした地域にある資源を活用して活性化を考えるのも、一つだと手だと思いました。

○**澁谷俊一委員** 私はこの人数で同じテーマを話合っても結論は得ないものと思うんです。ですから、もっといっぱいテーマを出してもらって、それを分割して何名かで検討していく、そして事務局に提案する方がかえっていいように思います。大勢で検討しても、なかなか纏まらないと思うので、分科会でやってもらえたらなと思います。

○**富樫菊子委員** 今年度から商工会女性部の部長をさせて頂いて、はじめてこの会議に出させてもらいました。やっぱり藤島のまちを見ても、商店は静かすぎて店も閉めている所も多い。それで観光、いかに藤島に人を呼べるかということで、お金をいかに落としてもらえるかというのを考えていただきたいと思っています。それに子供の食育で、ふれあい食センターのこともありますから、そういう地産地消のものをこれからも、この食育に活かしていけるのか、ということも考えていただきたいと思っています。

○**奥山康光委員** はい。先ほど色々お話聞かせて頂いたのですが、なかなか絞るのは難しいと思うんですけど、松浦委員の交流人口をどうすれば増えるのかというのは、とても良いのではないかと思います。恥ずかしながら、私、地元、藤島の誇れるところ何処だと言われたら答えられない、そういうこと安藤委員や松浦委員など外からみえた方に、藤島の良さというものを、外から聞いてみたいなと思いました。どうすれば藤島に魅力があるのか、そういうものを私と同じ様に知らない人というのは結構いると思うので、そこをまず地域住民の方に知ってもらうのも良いことだと思います。どうすれば、遊びにこれる藤島になるのかを検討してはどうかと思いました。

○**小野木覺会長** はい、一通り皆さんから発言をしてもらいました。テーマをある程度絞るということで、例えば一つの案ですが、1番目の農業高校を守り育てるためというのは皆さんからご理解を頂いてよろしいでしょうか？

○**佐藤一晴委員** ちょっと、進め方について発言させてもらえれば在り難いのですが…。  
テーマを決めるのは重要なことなので、今回は時間を頂いて決めた筈なんです。事務局から出たテーマは、面白いテーマではあるんですが、これはかなり個別、具体的な部分がある。だから前回のテーマの設定がやっぱり適切だったと思います。大雑把なテーマを設けて、その中で庄農の問題を話し合ったり、楽々の問題を話し合ったりしてきた。だから大きな区分けの中での個別・具体的なものを皆さんから意見を聞くというのが、やっぱり良いやり方なのではないか。それからこの会の役割として、1番には市の行政に対するチェックの部分と、もう一つが地域テーマで皆さんから藤島こうしたらいいのではと意見を聞くこと。やはり会の運営の仕方としては、ある程度



大雑把な課題の中で、個別・具体的なものを語っていったらどうかと思います。それから分科会という話がありましたが、私は、あえて個人的には従来の方式が良いのではないかと思います。それは他分野に対して意見言いたいと皆さんが思っている点と、分科会にしてしまうと事務局体制がたぶん難しくなるのではないかと。それから時間的な面でたとえば三つの分科会に分けたとして、皆さん方が毎回それに出るのは、現実的に難しいのではないかと思います。

**○小野木覚会長** はい。わかりました。時間が大分過ぎていますので、この問題については、事務局で皆さんの意見を集約して考えていただき、この次まで示したいと思います。佐藤委員の意見の通り、大きなテーマをあげてそこから枝葉をつけるという形を取ります。そうしないと昨年と同じになってしまうので出来るだけそういう形を取ります。その中でどうしてもという事があれば、それはまた審議をするという形を取りたいと思います。それから分科会についてですが、事務局体制の問題もありますし、自分の好きなものだけをテーマにしてしまうと、どうも審議が成り立たない。ぜひとも意見がある方は、全体として物を考えていただく。グループごとにやっても、またそこから纏める必要が出てきて、時間ばかりかかってしまいます。で、この分科会だけは、やめます。審議会は、この地域をどうするかという基本的な問題ですので、ぜひ皆さんからご協力をお願いしたいと同時に、この問題については、事務局の方に一任していただきたいのですが、よろしいでしょうか？

**○中村支所長** 会長さんから皆さんのご意見を踏まえて、こういった進め方はどうかというご提案ありました。皆さんのご発言を伺いますと、農業などの地域資源を活かし、どう観光振興につなげて、交流人口を増やしていくかという事の様でありますので、今回、庄内農業高校ということで掲げておりますけれども、上鉢委員からあったように農業資源、今ある資源をどうネットワーク化していくか、当然それには庄農も入ってくるわけですから、そういった観点で皆さんからご議論を頂く。テーマにつきまして、なお文言等整理させていただきますけれども、あまり小さい具体的なテーマですと話の広がりも出てきませんし、意見もあまり出なくなるということもございますので、少し大きめのテーマも含めまして、会長さんとも相談させて頂きたいと思っております。それとご意見は、全て行政がやるということではなくて、農業振興、観光振興を図るために、誰が主体的にやっていくのか、ここも大事な訳で、すべて行政がやってくださいということではなく、行政としてこうした支援が必要ではないか、民間の方あるいは事業者の方、あるいは地域の方々に、こういった取り組みをしていったらどうなのかなど、住民と行政が一体的に、地域づくりに取り組んでいくためにはど

うすればいいのかという視点で、皆さんからご意見を頂ければ大変ありがたいと思っております。また分科会は、職員のことをご配慮いただいたご意見もありましたけれども、やはり年間の回数がある程度限られております。分科会を何度かやって、さらにここで全体に報告して、さらに議論をやるとなると、相当な時間を要するということにもなりますので、会長さんから、できるだけ皆さんから色んな意見を頂戴したい、そのためには一同に会した方がいいだろうという話もございましたので、その辺の所も会長さんと相談させていただいて、進め方につきましても次回に報告できるようにして参りたいと考えておりますので、よろしくご理解頂ければと思います。

**○小野木覚会長** 出来るだけ全員の皆さんのご意見を吸収しながら鶴岡市の方にこの地域を訴えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。大分、時間が押し迫っておりますので、次の議題に入りたいと思います。その他の藤島ふれあい食センターの調理業務の民間委託についてのご説明をお願いします。

## 7、その他

### (1) 藤島ふれあい食センター調理業務の民間委託について

#### ○本間総務企画課主幹より

- ・ふれあい食センターの調理業務を民営化する基本的な方針、目的等を説明。
- ・また民営化の内容等についての説明
- ・これまでの関係者等への説明の経緯についての報告。

#### (質疑・応答)

**○丸山鎮委員** この問題、報告という形で終わりそうな感じなんですけど、給食については、羽黒の方でだいぶ大きな問題になった訳です。単なる説明で良いのか、そうではないんじゃないかなと私は思います。藤島ふれあい食センターのそもそもの目的の一つは、地産地消、顔の見える農家の人たちが材料を提供して、ふれあいを求めるというのが大きな目的の一つだったと思います。その部分についてはどうなるのか。なんか「サンサン畑の会を中心として推進します」と書いてありますが、本当にそうなのかなあと一つ疑問に思います。それからもう一つは、栄養士の管理体制が大事になってくると思いますが、栄養士は一人。一人で最終確認まで全部できるのか、その辺の説明を再度お願いしたいと思います。

**○本間総務企画課主幹** ただ今、ご質問いただきましたけども、まず食育の関係ですが、

これは資料にも記載していますが、給食を通じた食育活動は、民間委託後も現在と変わりありません。あくまでも調理業務だけを民間で担っていただくもので、学校栄養職員が学校に出向いたり、食育活動を行うことは従来と変わらないものです。それから栄養士の数は、学校栄養士と福祉食の栄養士として二人おります。ですから従来と同じように充分対応できるものと思います。

○**小野木覚会長** ちょっといいですか？栄養士と言っても、管理栄養士なのか、それともただの栄養士なのか、どちらなのですか？

○**本間総務企画課主幹** 栄養教諭と管理栄養士、一人ずつおります。

○**丸山鎮委員** 相当の量をチェックするわけですから、一人で大丈夫なのだろうか、単なる書類のチェックに過ぎないのではないかな。それで果たしていいのかな。それから調理の部分、市の職員がやっていた所を民間の業者が入ってきて調理する、そういう流れの様ですけど、金銭的なことや時間的なこと、出来栄もあると思いますが、どれほど変わるんでしょうか？

○**本間総務企画課主幹** 調理する時間は決まっております、各学校に配送する時間もありますので、その時間の中で終わる様に調理していただくことになります。現在は市の職員と嘱託・パート職員が担っておりますが、それを民間業者が雇用した職員でやっていただくということで、民間業者が何人で提案してくるのか、それを市として審査して最終的に決めていくということになります。

○**丸山鎮委員** 公務員ですから地元の人だと思うのですが、地元の良い職場がまた一つなくなってしまうのではないかな。民間も地元だと言われればそれまでですが、若い人、子育てまで皆繋がってくる訳ですので、安定した職場がまた無くなるというデメリットが出てくる。果たして地域全体としてどうなのかと疑問を持つ所です。

○**高橋徳雄委員** この問題以外に聞きたいのですが、行革でどんどん公設民営化を進めていくという観点だろうと思います。そういうことで、これから藤島の管内で、こうした民営化を進めて行こうという計画がその他にもあるものですか？

○**中村支所長** 高橋委員さんのご質問ですが、先の会議で行革の資料を配布させていただきました。実施計画の中に様々な公設民営化など民間の方々のお力をお借りししな

がら進めるとか、補助金等についても不要なものを見直しをしていく、そういう内容をお示ししてありますのでご覧いただきたいと思いますが、たとえばエコ有機センターや保育園などを民間活用する計画をしています。ふれあい食センターについては、全体を公設民営にすることではなくて、調理の部分だけを民営化するとされています。栄養士さんは今まで通り配置して今まで通りのお仕事をさせていただくことにしております。ただ調理業務については、公務員でなくても民間の方々でも充分対応できるのではないかとということであり、他の地域においても、特段問題なく取り組みをしております。先ほど羽黒の件も出ましたが、あれは自校方式からセンター方式にし、さらには羽黒地域内ではなくて白山の学校給食センターから持ってくるという、相当大きな変更だったので、地域では課題として取り上げられたということがございます。地元というのはどこまでを指すのかもありますが、業者さんが決まった場合には、できるだけこの地域に、あるいは藤島地域にお住まいの方々を雇用していただけるようお願いして参ります。私どもとしては公務員がしなければ絶対できない仕事なのかという観点から、民間で可能なものは出来るだけ民間にお願いする。それでも子供の給食ですから、市の責任というのは非常に大きいものがございますので、その管理責任の元に、やれる所は民間からお力を貸していただき進めて参りたいというのが今回の調理業務の委託でございます。保護者の方々などにも説明会を開催させていただいて、概ねこの件に際してはご理解を頂き、なお保護者の方々全員に分かり易い資料を配布すれば良いのではないかとのご意見を頂いた所でございます。なお我々といたしましては、また疑問な点があれば、丁寧に説明をして参りたいと思っている所でございますので、よろしくお願いいたしたいと思っております。

**○小野木覚会長** はい。皆様のご意見をお聞きすれば、きりが無いほど意見があろうかと思っております。ちょうど時間になりましたので、今日はこの審議会を終了したいと思います。よろしいでしょうか？（全員：はい） どうも、ありがとうございました。ご苦労様でございます。

**○今野総務企画課長** 大変、長時間に渡りありがとうございました。これを持ちまして本日の地域審議会を終了させていただきます。本当にありがとうございました。